

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 4 月 22 日 9:21AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 31,500～36,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～42,200 ドル
(S&P500) 4600～5750

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500～18,300

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～146.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～103.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



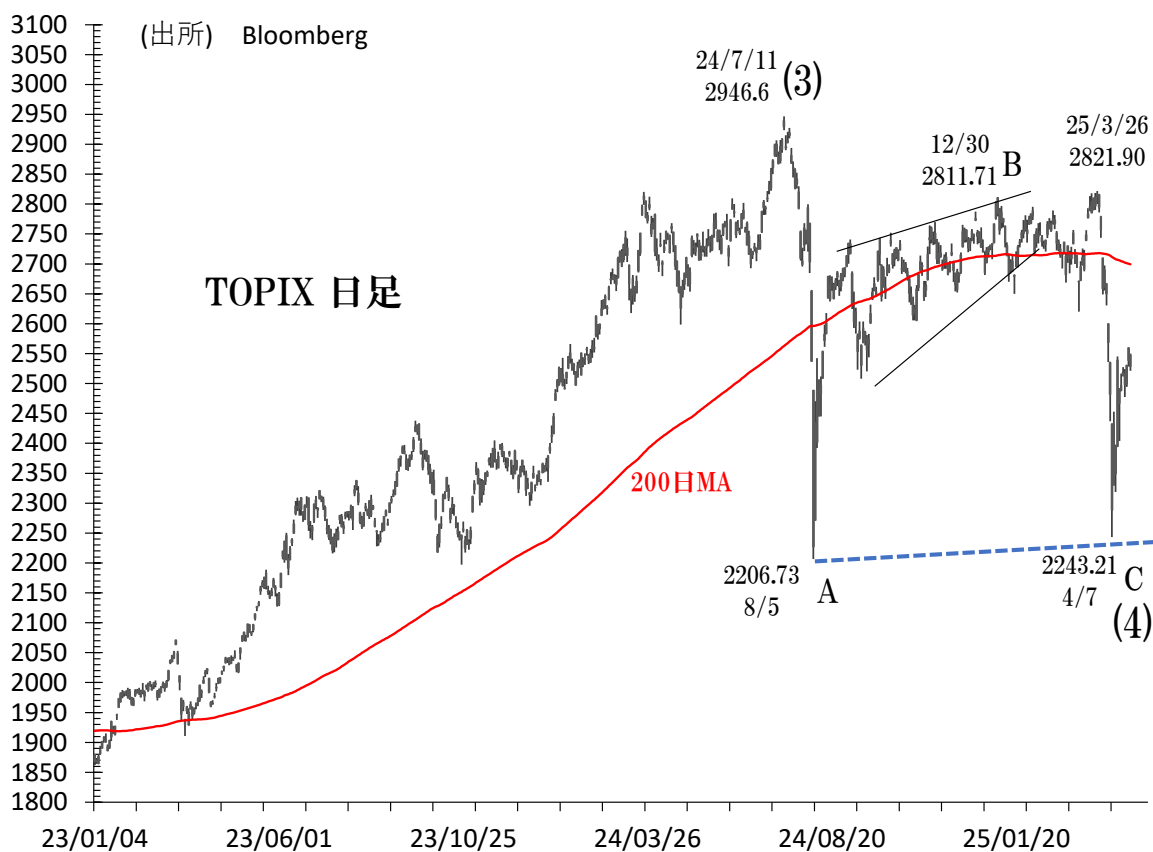
【週足 エリオット波動分析】

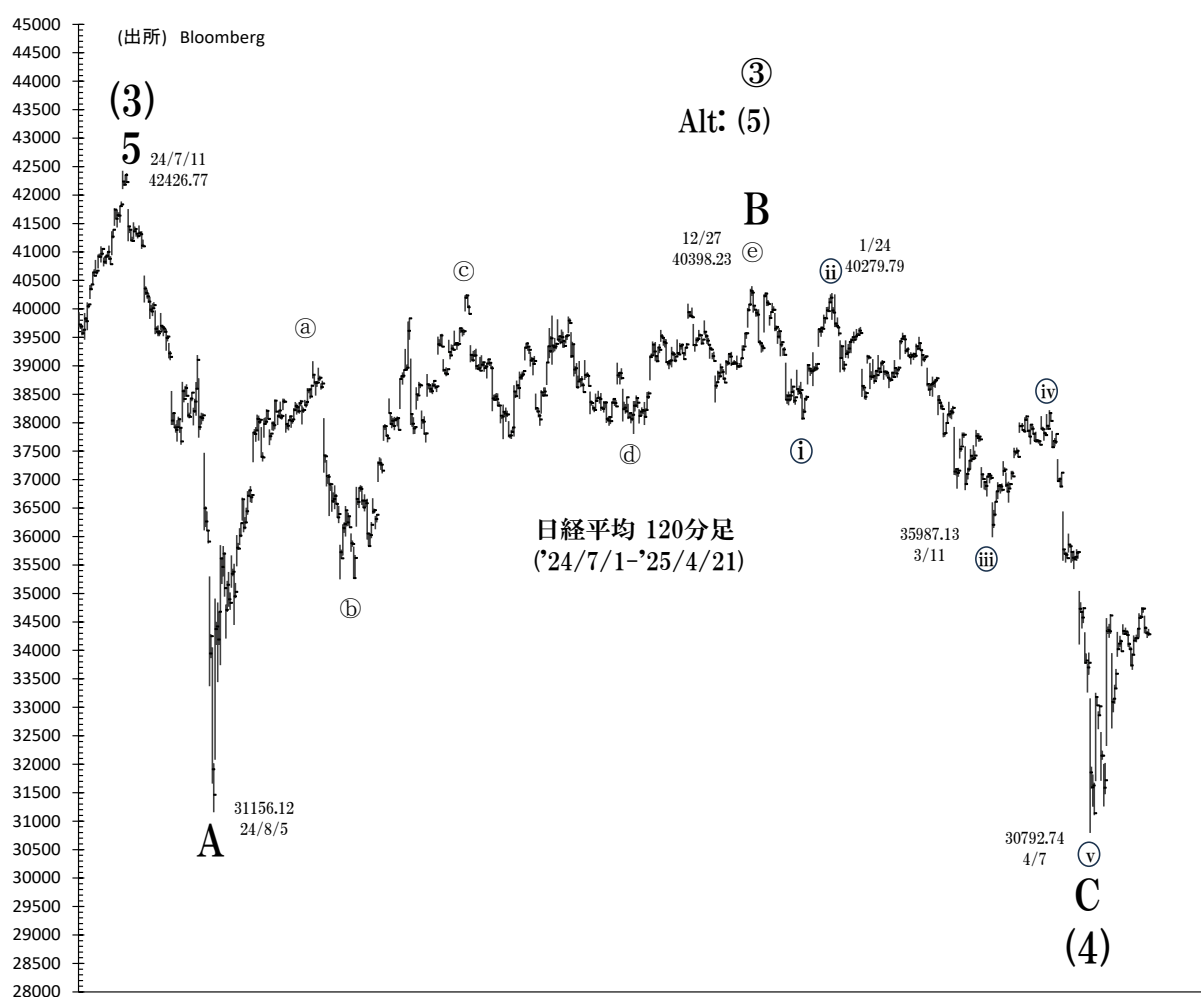
4月7日の安値(30,792円)は、インターミディエイト級(1)波高値(30,795円)を3円だけ侵犯し、1波と4波が重ならない「ノーオーバーラップ」の原則に抵触しました。一方 TOPIX の1波と4波は重ならず、4月7日安値(2243)は24年8月底(2206)に対し切り上がりました。

このような、**日経平均とTOPIXの間の「未確認」は底入れのサイン**として大いに注目できます。

4月7日の東証プライム市場出来高は36億6374万株に急増し、24年8月底(40億9000万株)に次ぐ大きさでした。**TOPIXはセリングクライマックス型の「二番底」を付けた可能性が高い**、とみられます。

日経平均は、重要サポートとしての200週MAを週末値で維持しました。プライマリー上昇波は続いている、とみることができます。そうであれば、**日経平均は今後数カ月内にインターミディエイト級第(5)波の上昇に移行する可能性があります。**





【日足・時間足 エリオット波動分析】

4月7日の安値(30,792円)を以て、24年7月高値(42,426円)からのプライマリー③波における、インターメディアイト級(4)波は、「フラット」調整で終わった可能性があります。

当面の上値レンジとして、**[35,595円～36,728円]**(24年12月高値 40,398円からの下げ半値戻り～61.8%戻り)が想定されます。これまでのところ、4月からの戻り高値は 34,758円(4/18)です。

同レンジでは、大量の「やれやれの売り」が待ち構えていると思われます。**4月7日に底打ちした可能性は高いと思われますが、(24年8月底直後のような)V字型回復は期待薄でしょう。**戻り売りをこなし、上昇基調が強まるまで一定の時間が必要でしょう。

(オルタナティブ・カウント)

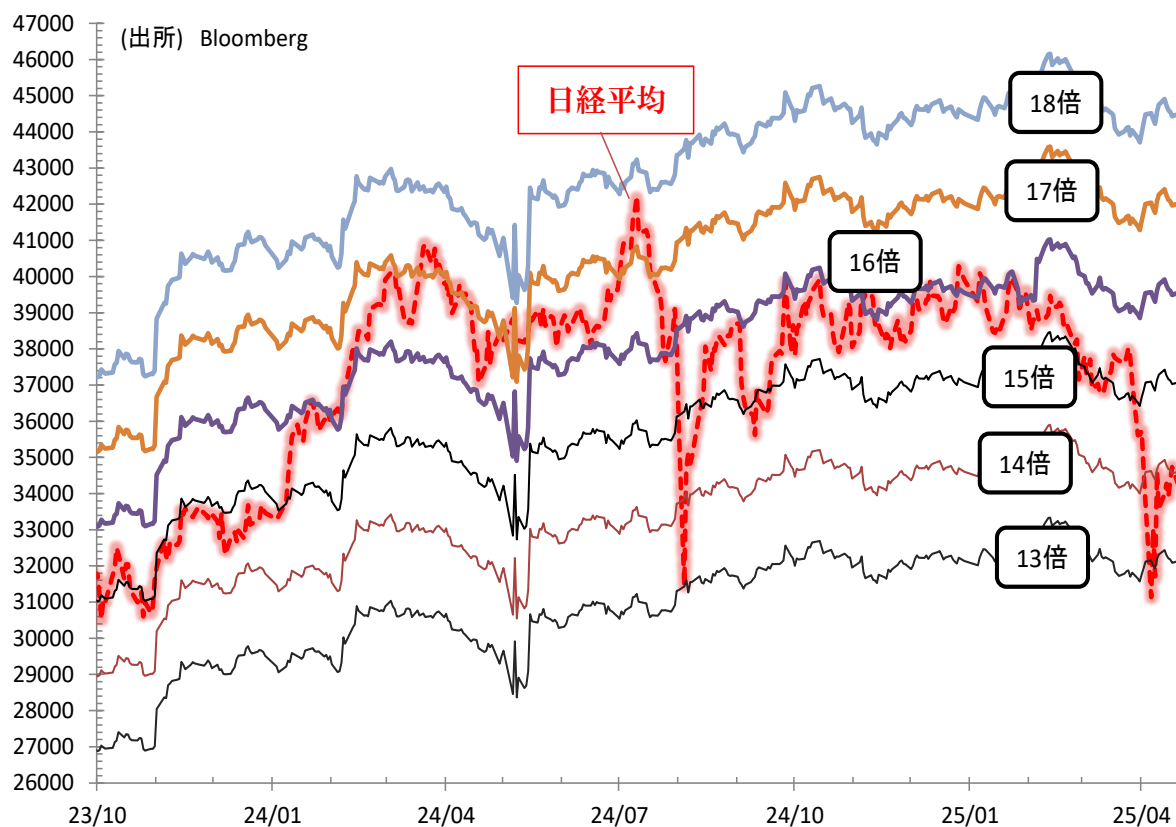
30,792円を下抜くと以下の波動カウントに切り替えます。

24年8月からの上昇第(5)波は 40,398円(12/27高値)を以て終わり—”truncated fifth”(短縮された5波)—プライマリー級の④波による調整が進行中とみられます。この場合**日経平均は、いずれ2万7000円処(PBR1倍水準)を試す可能性**があります。

[予想 PER 別の日経平均水準]

4月21日の日経平均予想 PER は 13.87 倍、予想 EPS は 2471 円でした。過去最高の EPS は 2564 円 (2/13) です。

なお歴代 3 位の下げとなった 4 月 7 日の PER (12.59 倍) は、24 年 8 月 5 日「令和のブラックマンデー」の 13.01 倍を下回りました。



NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

昨年末に想定した通り、NY ダウの調整規模は 22 年 10 月以降最大に拡大しています。4 月 7 日には一時 36,611 ドルまで下げ、22 年から上昇の半値押し[36,807 ドル]に達しました。

足元の上昇は第(4)波、あるいは第(2)波によるリバウンド局面に位置付けられます。

200 日 MA(42,199 ドル)付近までの戻り余地はあるものの—そのハードルは高くなった印象ですが—その後に来る下落局面には引き続き注意が必要です。

なお 200 日 MA 水準まで戻る代わりに、横ばいの動き(トライアングルなど)が当面続く可能性もあります。もしそうなれば、現在は第(4)波であることの証左になります。

いずれにしても弱基調は続いており、今後数週間から数カ月の内に 36,611 ドルを下抜く展開が想定されます。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、より大きな下落スケールになると思われます。試みに最高値から 22.4%下げる水準を求めると[34,977 ドル]です。この付近には[34,930 ドル](22 年からの 61.8%押し水準)があることから、3 万 5000 ドル処は中期下値目標として適当とみられます。



S&P500 週足

③
(5)

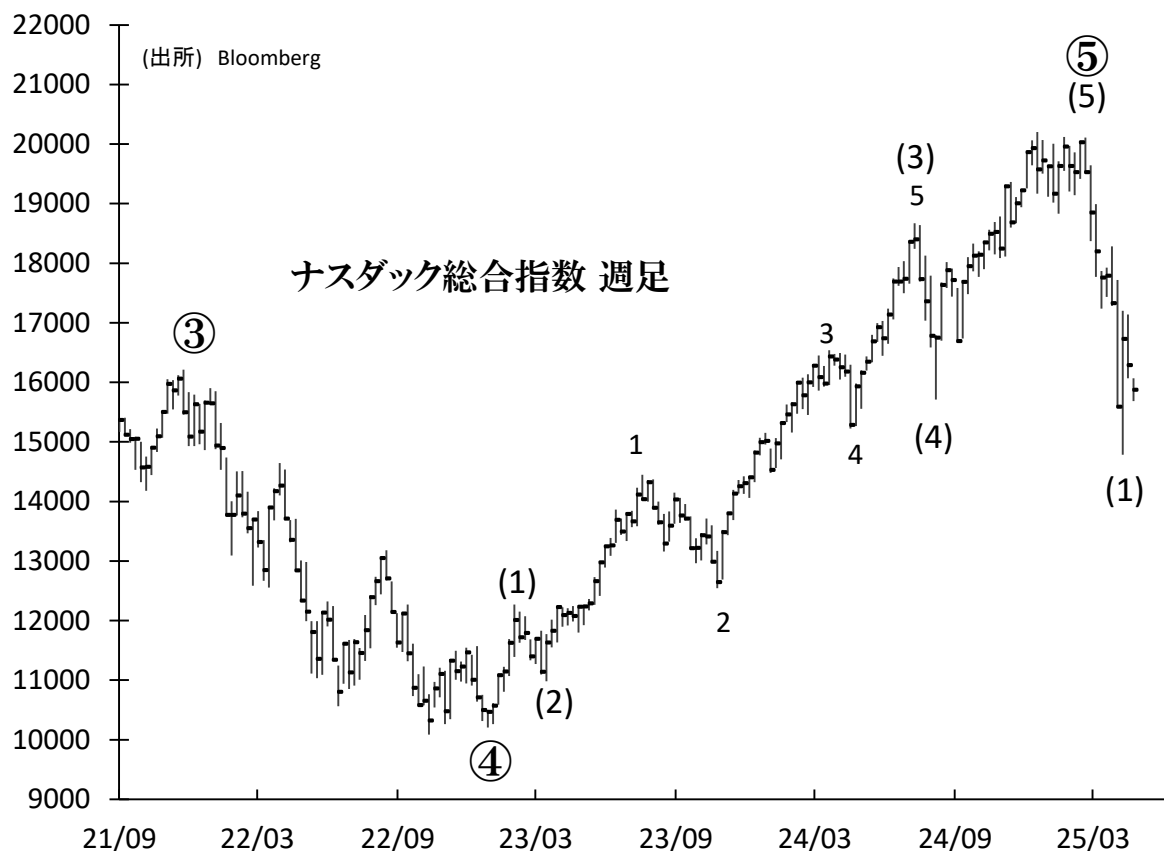
(A)

Alt: ④

⑤

7

ナスダック



【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

ナスダック総合指数(以下、ナスダック)は、24 年 12 月安値(20,204)からサイクル級の調整が進行中とみられます。

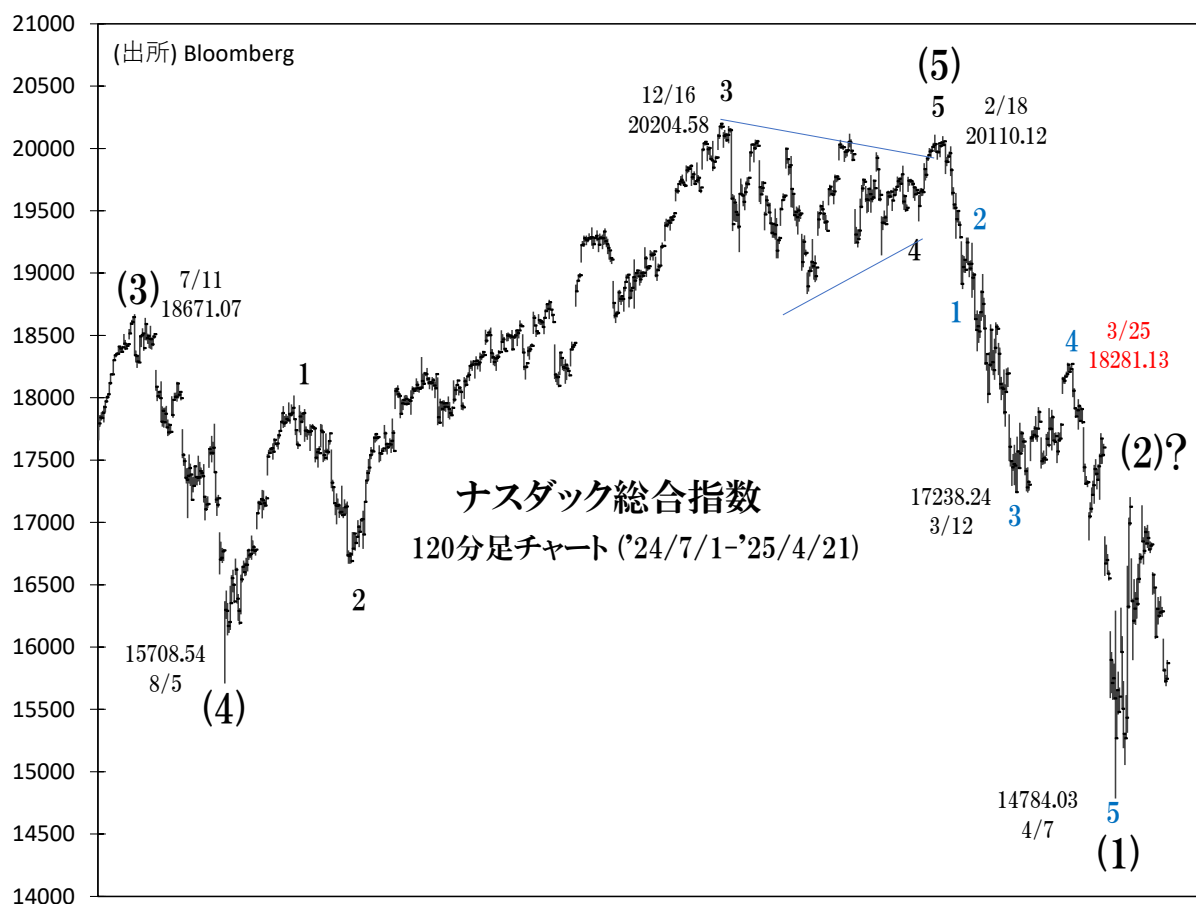
21 年～22 年のプライマリー④波の下げ率(37.77%)は、ほぼフィボナッチ比率(38.2%)でした。

今後 1～2 年という期間でみると、**[12,527]** (24 年 12 月高値から 38%下げる水準)へ下押す可能性もあるでしょう。

さらに、**先々④波安値[10,088]への下値試しとなる可能性にも留意**すべきでしょう。サイクル級の調整は、プライマリー級のそれよりも一つ上の波動等級(ディグリー)であり、ディグリーが大きくなるに従い調整スケールも大きくなります。

14,784(4/7 安値)から第(2)波によるリバウンドが展開していますが、それはまだ続いているかもしれません。もっとも、**リバウンド完了後には第(3)波の下落によって、14,784 を下抜く可能性に注意**が必要です。





【時間足 エリオット波動分析】

14,784(4/7 安値)からは第(2)波によるリバウンドとみられます。

この第(2)波は、2 月からの下げに対する 50%-61.8%を引き返すとみられます。この見方によると、**想定される上値レンジは[17,447-18,075]**です。想定レンジ上限からやや上に、第(1)波のレッカー・ディグリー4 波高値 18,281(3/25)、200 日 MA(18,368)などがあります。今のところ 4 月安値からの戻り高値は 17,202(4/9)にとどまっています。

この波動カウントによれば、第(2)波リバウンドを経て第(3)波の下落が続くことになります。そして、この第(3)波は 14,784 を明確に下抜く見込みです。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は 136.425 円(4 月)に位置します。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 116.800 円(4 月)です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]説によれば、C 波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。158.825 円(1/10)から、Ⓒ波によるドル安・円高が進行中とみられます。

4 月 21 日にドル円は 141 円を NY 市場終値で割り込み、過去 2 年間にわたるチャネルから下放れ始めました。この動きにより、短期的には 140 円大台を、さらに 24 年 9 月の 139.565 円を試すでしょう。

今月から来月にかけて[138.517 円-136.452 円]を試すことになってもおかしくないでしょう。

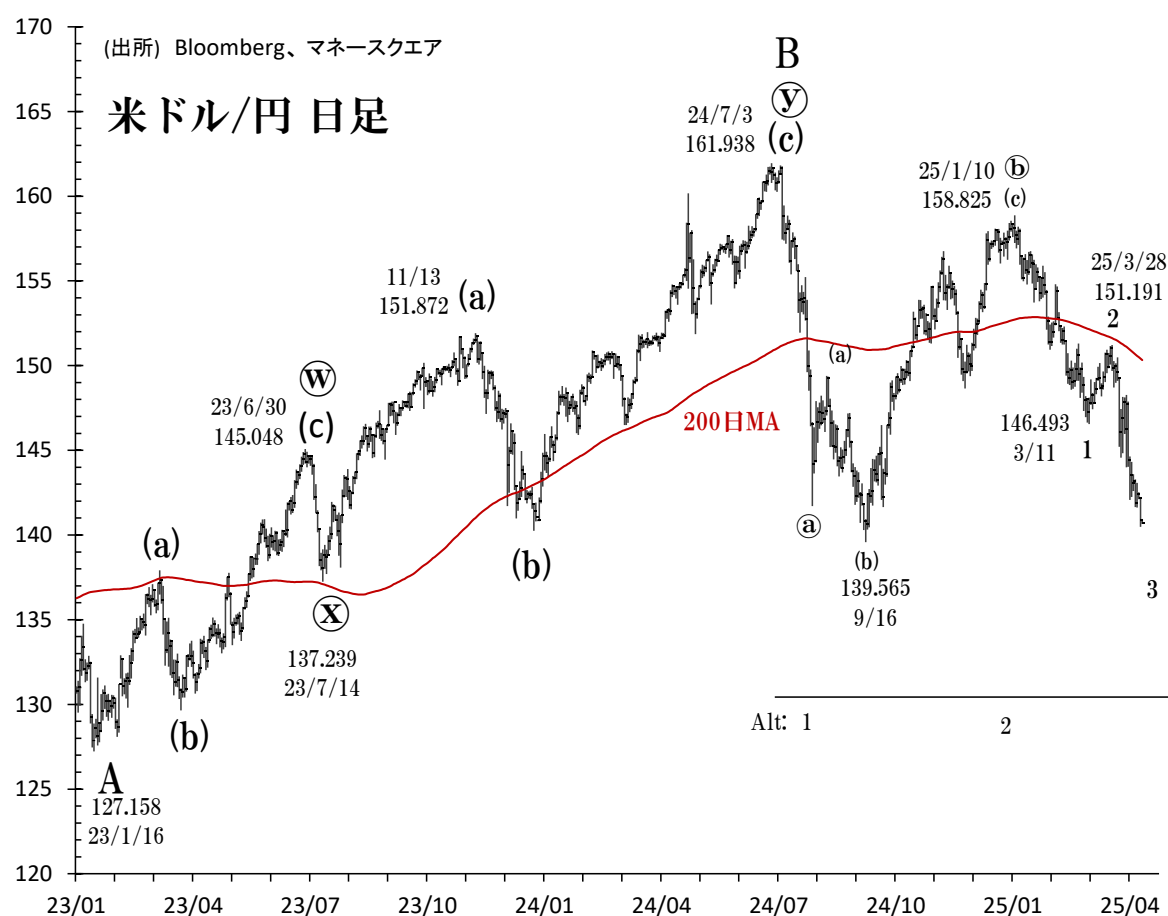
[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい

ヘッド・アンド・ショルダーズなら 1 ドル=125 円~120 円も

139.565 円を NY 市場終値で下回ると、ヘッド・アンド・ショルダーズ型天井完成が確認されます。

そうすると①[ランニング・トライアングル]説の現実味が薄れ、それに代わり、今後は 1 ドル=125 円~120 円を目指す、という見方が優勢になります。



【日足 エリオット波動分析】

151.191 円(3/28)から、第 3 波によるドル安・円高が進行中とみられます。

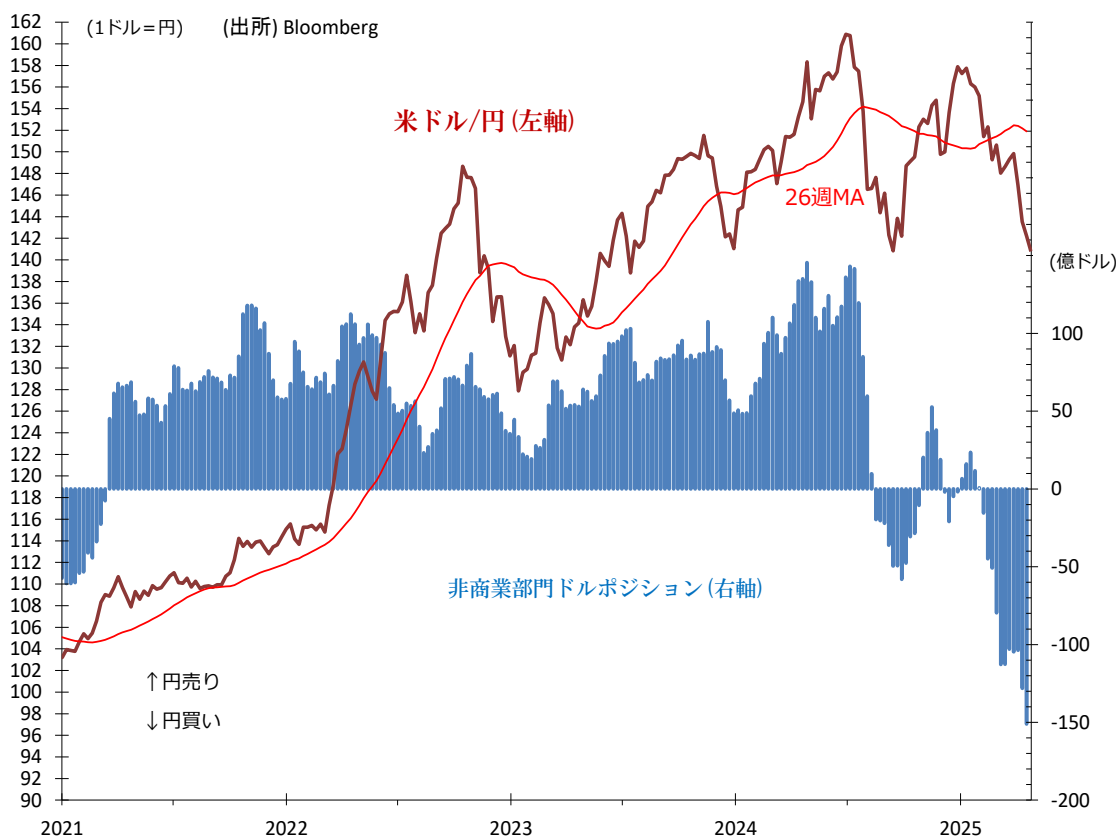
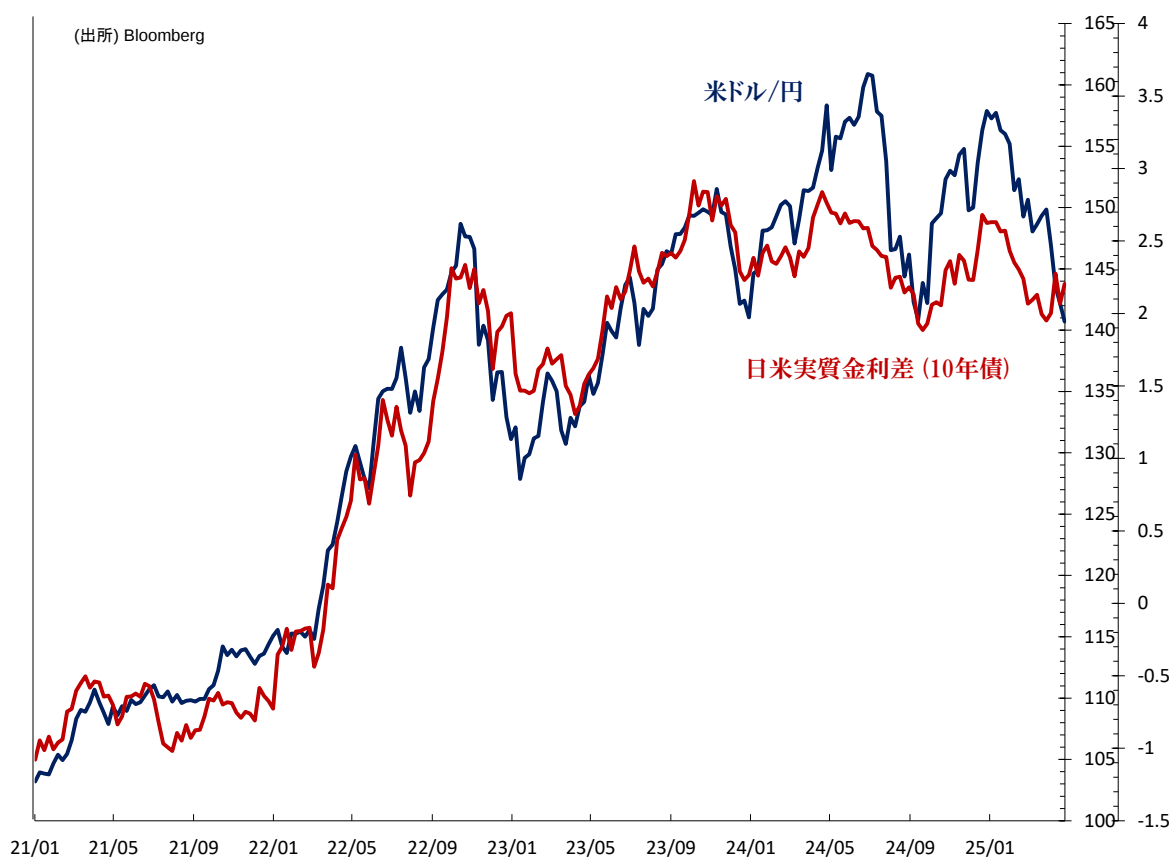
この波動カウントが正しければ、第 3 波は 139.565 円(9/16)を短期的にも試し、おそらくそれを下回るでしょう。なお第 1 波と第 3 波が等しく下がる水準は[138.859 円]です。

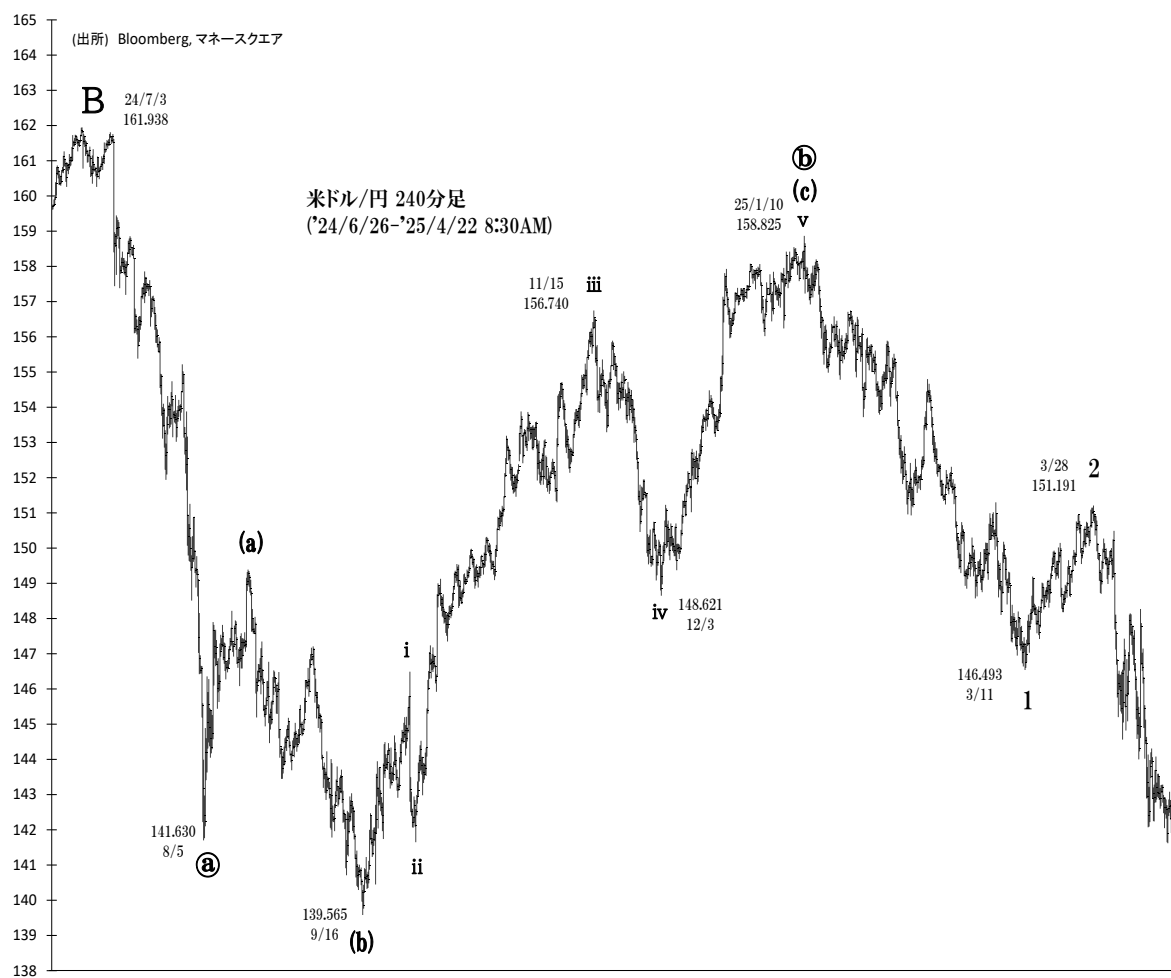
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[146.107 円]です。

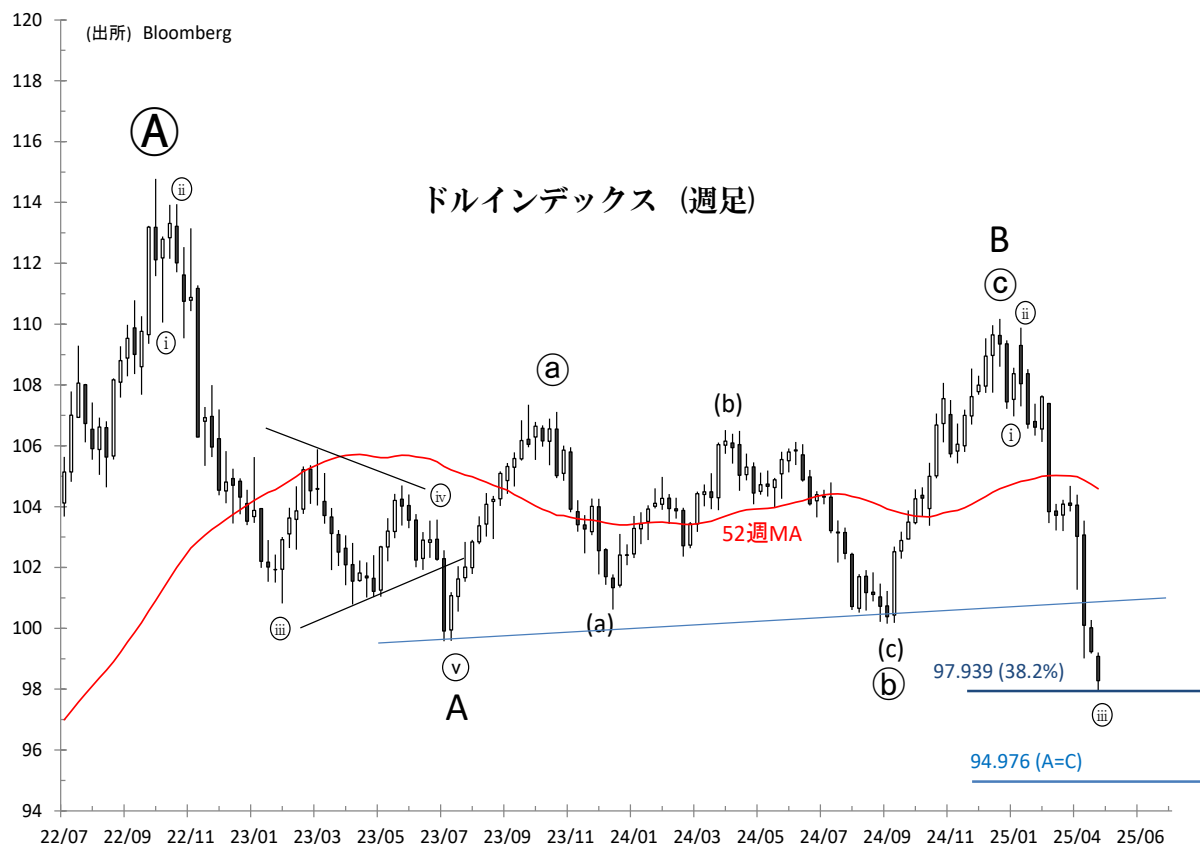
投機筋の円買い持ち高が過去最大に(2025 年 4 月 15 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は 2 週続けて急増しました。円買い持ちは前週の 128.07 億ドルから 151.08 億ドルと過去最大の水準を更新しました。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

4月21日、ドル指数は一時 97.921 と 3 年ぶりドル安水準をさらに更新しました。チャート節目の [97.939] (08 年からのドル高に対する 38.2% 戻り水準) に達しており、ドル安はいったん小休止する可能性があります。この場合、C 波中マル iv 波のリバウンド局面を迎えるでしょう。

もっとも C 波自体はまだ続いているとみられ、遠からず C 波中マル v 波のドル安が到来するでしょう。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドル指数は 10 カ月で 13.2% 減価しました。C 波も同様と仮定すると、今年 11 月頃にドル指数が [95.632] まで下げる可能性を指摘できます (時期は速まるかもしれません)。

なお A 波と C 波が同幅下げるとすると [94.976] が得られます。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
